

令和4年度 学校評価書【山形県立新庄神室産業高等学校真室川校】

教育目標「心豊かでたくましく教養ある人間を育てる」

校訓（自律・誠心・挑戦）を根底に据え目指す学校像

- 1 課題解決のために自ら行動する力を育成する学校
- 2 一人一人の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校
- 3 心身の健康と安全に努める学校
- 4 地域の活性化に貢献できる学校
- 5 有益な情報の共有を図る学校

自己評価および学校関係者評価の基準	
A：達成	B：概ね達成
C：やや不十分	D：不十分

番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
1	教育方針 学校経営	① 教育方針や学校経営に対して、生徒・保護者・教職員からの評価が前年度同様に高く、関心や理解が得られている。 ② 本校とのキャンパス制の実施については、コロナ禍による制限を受けたが、「キャンパス制運営委員会」を中心に検討し、効果的な交流活動を行うことができた。 ③ 町からの支援を受けながら分校としての教育活動を創意工夫しながら充実させてきた。そうした経緯もあり、地域参画に関する生徒・保護者・教職員の意識も高く、真室川校の教育活動に対して地域からの理解・共感が得られているととらえている。 ④ キャリア教育が系統的に実施されており、全教職員による連携した指導体制が確立された。	B	① 「一人ひとりがキラリと光る真校」づくりの実現に向けた取組みの継続と、「地域とともにある学校づくり」を行うために、地域のためにという視点を持ちながら、引き続き真室川町と連携を密にしPR活動や地域貢献活動を積極的に行う。 ② 少人数体制による教育活動をより強固にし、生徒と向き合う時間の確保に努める。会議の削減等に取り組み、業務の整理統合を引き続き推進する。 ③ 「真室川校魅力化に係る地域連携協議会」の協力をいただきながら、「魅力ある県立高校づくり」を推進するために町の文化活動や小中学校との連携をさらに深め、真室川校の教育活動をより魅力的なものとしていく。	B	○少人数体制のメリット・デメリットを明確し、よりよい教育活動につながるよう創意工夫を継続願います。 ○陸上練習やマラソン大会で、小中学生と連携を図ることが出来、良かったと思います。 ○素晴らしい方針の下、数々の実績も伴っており是非今後とも推進をお願いしたい。 ○真校の魅力ある教育活動や生徒の活躍を積極的に発信していると思う。マスコミを活用しながら更に魅力を発信してほしい。 ○様々な地域貢献活動を行っている。地域の方々とつながりを大切にしながら「地域を愛し地域に生きる」を引き続き、実践していってほしい。 ○少人数体制による教育体制が活かされていると思う。この利点を活かし、個々の能力を伸ばすように指導してほしい。
2	学習指導	① ユニバーサルデザインの視点を大切にしながら、思考力・判断力・表現力を育む言語活動を積極的に授業に取り入れ、アクティブラーニングを実践することができた。 ② 新学習指導要領に基づいた学習評価の改善について教職員の研修を深めながら実施することができた。 ③ 「自分は家庭学習をしている」と答える生徒の割合を伸ばすことができた。 ④ 自学ノートの提出が習慣化している生徒が多い一方で、提出が滞る生徒が一定数いる。 ⑤ 朝読書で読まれた本の冊数を増やすことができた。図書館の本のディスプレイを充実させることができた。	B	① 公開授業や研究授業・事後研修会などを通してより良い授業の在り方についての研修を深める。 ② 新しい学習評価に適合した授業展開や学習評価の具体的な在り方について、継続して研究していく。 ③ 個別面談を通して、各生徒の自学ノートの内容について助言を与えながら、生徒に家庭学習の大切さを教え、継続した学習ができるよう励ましていく。 ④ 生徒にとって楽しい図書館づくりをさらに進め、多読賞を受賞するような読書が好きな生徒数を増やしていく。	B	○生徒全体の学力に合わせた授業内容、有り難いと感じました。 ○真室川町では「まちなか図書館」と称し、町内の様々な公共施設等にも書籍を配置しているようなので、高校生にも周知を図っていただけたらさらに相乗効果を得られそう。 ○「自学ノート」が定着してきているようだが、基礎・基本を定着させるために、引き続き家庭学習の習慣化を図ってほしい。
3	進路指導	① 「キャリア学習講座」や「ソーシャルスキル学習講座」は進路意識の高揚に一定の成果があった。 ② 町と連携したインターンシップや「進路を考えるDAY」などの進路学習会をとoshi、多様化する進路に対し、生徒一人ひとりに対応する指導体制を維持・継続できている。 ③ 進路だよりを発行し、進路に関わる情報提供ができた。 ④ 多くの教育活動においてキャリア教育を軸に展開し、学習意欲及び進路意識の高揚、さらに地域理解・貢献につなげることができた。 ⑤ 面談週間を活用しながら生徒理解に努め、個々に応じた適切な支援を行うことができた。	B	① キャリア教育を軸とし、3年間を見通した進路指導を、職員共通理解のもと推進する。 ② 魅力化コーディネーターと連携し、企業見学、インターンシップの協力体制の継続と充実を図るとともに、町の資格取得支援を活用し、キャリア教育のさらなる充実を図る。 ③ 年度後半に集中しているキャリア講座の配置を見直し、早い時期から進路についての意識づけを行っていく。 ④ キャンパス制を活用し本校との交流を取り入れながら、様々な業種に触れさせ、幅広い視点で進路を考えられるようにする。 ⑤ 早期離職対策として、コミュニケーション力やソーシャルスキルの向上を目指した指導を継続する。	B	○「コミュニケーション力」は卒業後も非常に重要になる部分なので、日頃からスキルアップを目指し、継続した取組みが必要。 ○進路決定までの手厚い指導・サポートありがとうございました。 ○産業高校という視点からも是非改善点に力を注いでほしい。 ○地元の事業所の理解と協力をいただいて、キャリア教育の取組みがしっかりと行われている。地元で活躍出来る人材の育成を引き続きお願いしたい。

番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
4	生活指導	① キャリア教育に基づいた生活指導が維持できた。(日常のあいさつ運動、身だしなみ指導、問題行動・いじめ防止など) ② キャリア教育に基づいた生徒会指導が維持できた。(全校ボランティア、体育祭、真校祭、生徒集会など) ③ 縦割り班による活動が定着・機能し、学校祭をはじめとする行事及び諸活動で成果が上がった。 ④ 感染症対策を徹底しながら、3年ぶりに真室川祭りおどりパレードや真校祭一般公開などの大きなイベントに参加したり、開催したりすることができた。	B	① 現行の指導レベルを維持するため、年度初めに行っている「当校生徒指導の理念」の確認を継続する。また、生徒数等を勘案しながら、随時検討して生徒指導を行う。 ② いじめやスマホの利用について新入生に対する早期の指導を行い、問題行動の未然防止に努める。 ③ 縦割り班活動を継続し、様々な場面で取り入れ、学年間交流を通したコミュニケーション力の育成を図る。	B	○縦割り班活動や部活動を通じて他学年との交流や仲間作りができて良かったです。 ○いじめやスマホ利用への取組みの徹底が感じられるので今後も継続してほしい。 ○問題行動もなく、とても良いと思います。この状態が続くよう指導をお願いします。 ○挨拶や返事などの声が小さくなっているとのことだが、様々な活動や就職等には不利なことなので、コミュニケーション能力の育成を図り、しっかりと相手に伝える能力を付けてほしい。
5	健康安全	① 全校生への「命の教育」、「交通安全」、「防犯・薬物乱用防止」講話を行い、心身の健康について意識を高めることができた。 ② 職員会議時の生徒理解のための情報交換会やステューデント・サポート(SS)委員会を行い、関係機関と常に連携を図ったことで、特別な支援が必要な生徒のサポートができた。 ③ スクールカウンセラー(SC)の配置により、困り感を持つ生徒への心のケアができた。 ④ 教室の換気や手指消毒を励行し、感染症の集団発生を防止した。	B	① 眼科・歯科の受診率のさらなる向上を図る。 ② 学年での適時的なケース検討会を行い、特別支援の体制をさらに整える。 ③ 特別支援学校や外部支援施設との連携・協力体制の構築を継続検討する。 ④ スクールカウンセラーと連携し、生徒のシグナルの早期発見、早期対応に努める。 ⑤ 緊急連絡体制を周知徹底し、学校行事等での事前指導を行い、事故の未然防止に努める。 ⑥ 基本的な生活習慣を身につけさせ、健康管理の意識向上に努める。	B	○学校として出来る範囲については十二分に行っていたとは思いますが、退学者が出てしまったことは残念でした。高校の役割を超えてしまうかもしれませんが、保護者との面談を増やし保護者理解を深めることが、生徒への対応を探る1つの方法かもしれません。 ○学習や各種活動の基本となる分野なので、決しておろそかにしないで今までの取組みを続けていただきたい。 ○生活リズムや生活習慣をしっかりすることは、社会に出てからも必要なことなので、規律正しい生活が送れるように指導をお願いしたい。また、スマホの使い方についても指導が必要だと感じています。
6	地域連携 その他	① 今年度は真室川祭おどりパレードに参加し、生徒が活躍する場ができた。また、全校ボランティアは2回実施することができ、生徒の勤労観を育成することができた。 ② 学校行事の様子やボランティア活動、校内でのあいさつ運動等の様子を、地域住民に知ってもらう手立てとして学校だより「ふきのとう」やホームページの更新を定期的に実施できた。また町の広報誌でも「真校魅力だより」を掲載していただくことでPR効果が高まった。 ③ 就学支援金や資格取得支援、また、学校行事等にスクールバスを利用させていただくなど、学校及び生徒に対して、町から大きな経済的支援を受け、充実した教育活動を行うことができた。 ④ コロナ禍の影響により、同窓会総会を開催することができなかった。引継ぎも行えず、来年度以降に課題を残した。	B	① 今年度よりコロナ禍から復活した行事参加を、例年以上に意識して丁寧に生徒の勤労観の育成に努める。 ② 魅力化コーディネーターとの連携をさらに密にし、学校の魅力化発信力を強化する。 ③ PTA活動について PTAの各事業が実施、またはそれと同等となるような成果が得られるよう方策を検討していく。 ④ 同窓会の引継ぎについて 当番幹事同士の引継ぎが4年間途絶えているため、実施可能な行事が円滑に進むよう、担当者同士で連携を深める。 ⑤ PTA役員体制について 来年度の会員数が大きく減少した場合に備え、役員体制を大きく見直すなど改善を講じる。 ⑥ 学校評価アンケートの集計作業について 教職員・保護者双方の負担が軽減されるように、ICT 機器を活用し個人で入力できるシステムにし、入力の手間が省けるようにする。 ⑦ 学校連絡システムの活用について 「さくら連絡網」の加入率が下がらないよう、文書などを通じて手立てを講じる。引き続きシステムについて課員で研修し、複数で情報を発信できる体制にする。	B	○まだ新型コロナの影響で、全体的に真室川校を上手く見ることができないでいる。外から見たイメージではおとなしいイメージしか持っていない。イベント等での触れ合いもなく過ぎて行っているので、正直わからないところが多い。今後の活動に注視したい。 ○ボランティア活動は真室川校の大きな魅力ある活動の1つです。今後も継続した活動をお願いします。 ○学校祭は予想以上の来客があり驚きました。地域への良いPRができたと思います。 ○コロナ禍も一段落を迎えようとする中、様々な地域活動も再開や復活をとげている。是非、真室川校生の関わりを期待したいです。 ○今年は真室川祭りおどりパレードが開催され、3年ぶりに参加しました。引き続き、地域貢献活動としてこの活動やボランティア活動、あいさつ運動など継続して行っていただきたい。